

【桜】

夜桜 里桜 薄墨桜

桜の原産地はヒマラヤと言われ、北半球の温帯に広く分布する。それとは別にネパールから贈られたヒマラヤ桜というのが熱海にあるが、この桜は冬に咲く。

法的な定めはないが、桜は日本で国花のように扱われている。世界的には花より桜の果実が重視されており、涼しい気候の地で初夏に実る。

桜は突然変異の頻度が高いということから園芸種が多くなった。園芸種をまとめて里桜と呼ぶことがある。牡丹桜は里桜の一つで、葉の縁に芒形がある。牡丹桜の花弁は多いが、裏返して重厚な花びらを支えている萼を見ると五枚しかないことに気がつく。

「奈良の八重桜」と「奈良の九重桜」があるが、後者の萼は副萼があつて一〇枚の萼があるようにも見えるのがこの桜だけの特徴である。前者は山桜から、後者は霞桜から生まれたという。

一本桜としての伝説や由来を持つ桜が全国にある。桜の群生には財力が必要で、普通は寺社の境内や領主の庭に植えられた一本の桜で花見が行われた。一九二二年、三春滝桜などが天然記念物第一号に指定された。

山桜の群生の代表である吉野山は「吉野の里にふれる白雪」で知られていたが、江戸時代、「義経千本桜」の大江たり以来、吉野の桜が不動のものとなった。